

## Glue Crew リーダーによる最新活動レポート



いろいろな人の、いろいろな個性を  
ぜんぶ正解にすることで、  
仕事も、世界も、もっと楽しめる。

## 植西 嘉子

カスタマー  
リレーションズ部  
広告宣伝

スローが、近道になる。

## 川原 恵美

カスタマー  
リレーションズ部  
広告宣伝

Glue Crewというひとつのプロジェクトの立ち上げについて、2019年の年始に全体朝礼で社長が発表した。翌月にはスローレーベルの栗栖良依さんを講演に招き、その後からメンバーを募った。資格や役職などは関係なく参加でき、参加の有無が評価にも繋がらない「完全自主性」だった。新年度を迎えた4月に正式にGlue Crewが発足。9人のメンバーが集まった。そのなかでもふたりの女性がリーダーとして抜擢される。川原恵美さんは「ふつうがずっと続くとは限らない」という栗栖さんのお話に感銘を受け、一時的に体調を崩していた自分の境遇と重ね合わせていた。もうひとりとは植西嘉子さん。彼女はそれまで障がい者は「手助けしないといけない存在」と考えていたが、パートナーとして障がいのある方と対等な関係を築くスローレーベルの活動を目の当たりにし、この世界のことをもっと知りたいと思ったことがきっかけだったという。そして先日、サーカス技術の練習や習得を通じて、協調性・問題解決能力・自尊心・コミュニケーション力などを総合的に育むプログラムである「ソーシャルサーカス」を社内でも実施。世界各地で貧困・難民・虐待などに起因するマイノリティのエンパワメントにも活用されているこのプログラムを導入し、成功に導いた。そこで、3カ年計画の初年度を終えたリーダーのふたりに活動の意義を聞いてみた。

※スローサーカススクールとは、ソーシャルサーカスのメソッドを活用し、さまざまな事情により社会に出ることが難しい方々を対象とした、支援プログラム。

## プロジェクト開始から衝撃の体験まで。

4月にプロジェクトが発足して、最初に取り組んだことはなんですか？

**川原** なにをすればいいのかわからなくて、スローレーベルさんからの提案や、社長からのミッションを待っているような感じでした。

**植西** ところが誰からもミッションは降りてこない(笑)。はじめに社長から提示された「多様性を企業の力に変える」という大枠のテーマだけがポンと目の前にある状態。しかもそれが果たして正解なのかどうかわからないという。

**川原** これではどうにもならないというときに、スローレーベルの方から「ひとまず東京でやっているスローサーカススクールに参加してみませんか?」ってお誘いいただいて。とにかくなんらかのヒントになればと思って、参加することにしました。

参加してみたの感想はいかがでした？

**川原** それがもう衝撃体験だったんです!まさしく自分の価値観が覆った感覚でした。自分ではこれまで

でも障がいのある方への偏見はないつもりでいたんですけど、自分で勝手に思い込んで線引きしていたところがあったんだと気づかされました。

どういうところでそう感じたのですか？

**川原** みんなとても積極的に社交的。もしかしたら自分たちよりもコミュニケーション能力が高いんじゃないかとさえ思いました。そのときに、ああこれまで自分で勝手に障がいのある方たちはこうだと決めつけていたんだなあ気づいて、けっこうショックでしたね。

**植西** 私もこちらがリードしないとダメとすごく意気込んでいたら、逆に私がみなさんにリードしていただいて(笑)。障害に関する事前知識もないまま、自分から感じ取れないといけなかったの、今まで使ったことのない神経をフルに使ったこともあって、呆然としていました。

**川原** そうそう!帰りにふたりで東京タワーに登ってしばらくぼーっとしていたんです。夜景を見ながら、

その日の体験について確認するように、ずーっと何時間も喋っていました。

**植西** このままじゃ帰れない、という雰囲気でしたもんね。

**川原** じつは東京タワーでトイレに行って、そこで外国人観光客の方がトイレの流し方がわからなくて困っていたんです。これまでの自分だったら積極的にコミットすることはまずないんですけど、自分から話しかけて「これはこうするんですよ」って教えてあげたりして。ああこれは今日スクールに参加したからだろうというのを実感したんです。

**植西** なにかが開いたような感覚。こう言ってしまうたら失礼にあたるんじゃないかとか頭だけで考えて、勝手に壁を作っていたことに気づきました。解放されたというか、これでいいんだっていうのをサーカスで学ばせてもらいました。

**川原** まったく違うジャンルの引き出しが自分にできたような感じがして、それがすごくうれしかった。

## ついに迎えた社内でのソーシャルサーカス体験。

おふたりが衝撃を受けたソーシャルサーカスをいよいよ社内にもシェアすることができました。参加された社員のみなさんの反応はいかがでした？

**川原** アンケートを見ると私たちがまとめた活動報告書に興味を持って参加したという人もいらっちゃって、正直ホッとしました。そもそも報告書もみなさん本当に読んでいただいているのかもわからなくて心配だったので。

**植西** でも実際に募ってみると思ったよりも多くの方が参加したいと手を上げてくださって、最終的に2日間で3回実施して合計46人が参加してくれました。

参加者の感想は？

**川原** いちばんうれしかったのが「社員だけでやる回には意味がないのでは?」という意見が多かったこと。これはうれしい誤算でした。

**植西** 正直いきなり障がいのある方と一緒にやるのはハードルが高いんじゃないかと躊躇していたんですが、部署間交流の意味合いも込めて3回のうち2回はまず社員だけで体験して、1回だけ社員と障がいのある方が混ざってやることにしていました。

**川原** 今回参加いただいた障がいのあるみなさんは以前、私たちが見学で訪問させていただいて関わりのあった京都の障害者支援施設スウィングの方々なんですけど、逆に「障がいのあるみなさんが参加されている回に参加できてよかった」という声があったのはすごくうれしかった。思ったより社内に受け入れ態勢があるんだと感じました。

**川原** じつはGlue Crewが始まってすぐの頃に全社員向けに匿名アンケートを実施したんです。多様性を受け入れる意識が社内にとどのくらいあるのか知ることができたんです。そうしたら「急にそんなことを言われても…」、「やるならちゃんと事前研修してほしい」と辛辣な意見が多かった。それもあって、まずは社員だけで体験するワンステップを踏んでからのほうが安心かなという意見も正直ありました。でも蓋を開けてみたら、むしろすべての回で障がいのある方がいたほうが良かったといった意見が多かったの、自信になりました。

**植西** あと、障がいのある方の意見で印象に残ったのは「もっとゆっくりお話がしたかった」という意見ですね。

**川原** そうそう。私たちが事前の準備やスムーズな進行のために、当日はずっとバタバタしていて気づか



なかったんですが、イベントが終わった後でみなさんと、もっとゆっくりお話をする時間を取ればよかったなあと思いました。

**植西** わたしもこれまで障がいのある方々と関わる機会がなかったんですけど、逆に障がいのある方々もじつは家族や施設の方々など、限られた人たちとしか交流する機会がないので、彼らにとっても貴重な時間だったのかもしれないと感じました。



## 仕事に活かされるポジティブな姿勢

今回の取り組みを仕事面でも活かせると思いますか？

**川原** たとえば、これまで人間関係なんかでうまくいかないときに「相手を許す」か「自分が我慢する」の二択しかなかった。でもソーシャルサーカスを体験してから「そういう人もいるよね」「そういうやり方もあるかもね」と思えるようになったのは、スローサーカススクールに参加したことがきっかけだと思います。二択にとらわれず、じゃあ自分はどうしよう?とポジティブに考えられるようになった。

**植西** あと相手の顔色や体調、声のトーンなどを気にかけるようになりました。さりげなくひと声かけて人と心地よくコミュニケーションが取れると思いますし、コミュニケーションの際にこれまでより踏み込んでいけるようになった気がしますね。

**川原** 最初は社長の意図がわからなくてもどかしかった。私たちがサラリーマンだから社長がこのプロジェクトにどういう意義を持っているのかを理解して進めないといけなないと思いがちだけど、逆に自分たちで考えてやっていけばいいんだとわかりました。むしろそれが社長の意図だったのかなとは思っています。

**植西** スクールの参加募集なんかでも、ふつうの研修であればどうしても「このプログラムはこういう目的のためにやっています」と事前にテーマ設定をしがちですけど、それをしてしまうと参加する人がそれを感じ取れないといけなないと思ってしまいませんか?それは本意ではないんですよね。

**川原** 「もっと事前に情報がほしかったとか」「なんのためにやっているのかを説明してほしい」という意見はアンケートにもありました。それは私たちも4月に経験していることですから、気持ちはすごくよくわかるですね(笑)。でも、自分で感じ取ったものが正解、もしなにも感じ取れなかったとしてもそれも正解。そのこと自体も今回のイベントを通じて伝えたかったんです。

## これからの活動の予定

Glue Crewの今後の予定について聞かせてください。

**川原** いくつか障害者施設を訪問させていただいて、いまは次の段階として障がい者の雇用を進めている企業の訪問をしています。

具体的にどこに参考になったことなどはありますか？

**川原** たとえばある企業では障がいのある方だけの子会社を作っておられました。そこではたとえばDMを梱包して詰めたりコピーを取ったり、そういう各部署が抱えている細かい事務作業を一手に担っていて、すごく信頼されています。ニーズが増え、社員さんを増やすそうです。そういう関わりかたもあるんだと勉強になりました。

**植西** 障がいのある方を雇用するというと、これまでではスペシャルゲストをお招きして特別な接遇になるイメージしか持てなかった。でもそうじゃないことがわかっただけでも成果だったと思います。

**川原** じつは最初の計画策定の時には、どんなバリアフリーの設備があるのか?改装工事にどれだけ予算がかかるか?という話を中心でした。でも実際に障がいのある方たちと関わってみると、そんなことは後でいいということもわかりました。障がいのある方を一括りで考えず、その人にとって必要なサポートをその時々でみんなが考えていけば、どうにでもなるという自信がついたんです。



これからの活動でなにかこうしたいといったビジョンなどはありますか？

**川原** 今回のソーシャルサーカス体験で本社での認知度や理解度は上がったので、全国にあるサンクロレジャパンの営業所のみなさんにどうやって参加してもらうかが2年目の課題だと思っています。あとは多様性=障がい者ではない。社内の風通しを良くすることも多様性を受容する一歩だと伝えたいですね。

**植西** また今回のイベントをきっかけにGlue Crewのメンバーも増えるといいなと思います。AKBみたいに「2期生募集」とかやりますか(笑)。

**川原** 人が増えると活動も拡大しやすいですし、活動の仕方も変わると思いますしね。